

# 音楽科指導に関する実践的研究

## —指導者の言葉のアプローチに着目して—

藤田光子

Practicing research on music guidance  
—It pays attention to the leader's word approach.—

Mitsuko FUJITA

### はじめに

これまで学校現場との連携をふまえ、小学校の音楽指導について実践的研究を進めてきた。第1段階として『小学校音楽科の授業実践についての報告』2005年3月では現場の把握と養成校の取り組みについて実践を踏まえ紹介した。また『音楽科授業の模擬的指導についての実践と考察』2007年3月においては、小学校教員養成における音楽科での取り組みとして継続的に行っている模擬的指導について、『思考判断し表現する』ことに着目し、自ら考え客観的にとらえ指導にあたる音楽指導の方向性を考察した。そして第3段階としてさらに模擬指導をおこなう学生と教育現場の指導者の「言葉のアプローチ」に着目し、改めて音楽授業内での「言葉のアプローチ」を見直し、音楽授業における「言葉」のあり方の比較から学生への音楽科教育を充実させていきたい。

また、次期学習指導要領改訂時期を迎え、平成18年度中央審議会初等中等教育分科会教育課程部会の経過報告によると、「言葉」と「体験」を重視するとある。これらの観点を各教科で審議し間もなく今後新しい方向性が示されていくことになろうが、児童への言葉の重視は同時に

教師自身の言葉の重視にもつながっていると考えられる。また、小学校部会言語力の育成について(報告案)<sup>1)</sup>では、多様な教育環境を活用した指導の充実が謳われている。教科の特質を把握し、他者とのコミュニケーションなどにおいて充実されていくことが望まれており、今後の音楽科指導の改善や方向性が少しずつ姿を現してきている。音楽で考えられるメタ認知能力の育成といえ、自らが感じた音や、感覚等を客観的にとらえ言葉として、表現できる事などがあげられるだろう。さらに音楽科ではイメージや感情を比喩的な言葉で表すこと。音によるコミュニケーションを通して生活を豊かにしたり、音楽から人間関係を構築したり、歌唱から日本語の美しさを感じ取ることなどがあげられている<sup>2)</sup>。さまざまな授業においても言葉の重要性が問われ始めるのである。本研究では模擬的音楽指導の際の学生の「言葉のアプローチ」に着目し、その傾向をさぐり今後の指導の方向性の糸口とする。また学生が教師となり教師として価値評価を行っていくものになりうる事を自覚して「言葉」の存在が価値評価に直結していることを知覚できるよう指導をおこなっている

1) 教育課程部会 小学校部会議事録 H19.8言語力の育成方策について

2) 教科等を横断した指導充実の考え方<音楽>

きたいと考えている。

## I 教員採用と学習指導要領の改訂

教員採用試験は昨今大きな変化を見せ始めた。都市部では大量採用の時代と言われているが地方都市においては未だ教師へは狭き門と言われている。また試験内容にも変化が見られ始めている。今年東京都では小学校教員志願者に対して水泳の実技、鍵盤楽器の演奏は廃止された。東京都教育委員会によると音楽専科の充実により、鍵盤試験の必要性が低いとの発表である。その他の都道府県でも県外での試験会場を設け、年齢制限の緩和、実技試験の選択制、大学院生の合格者への就学中の猶予期間を設けるなど教員を確保するためさまざまな変更がなされている。この点から考えると、教員への道のりは若干緩和されたに思われるが、社会の教師、学校に対する要望や期待は年々ふくらみ、教育の現場に多様性を求められている。

小学校では東京都のように音楽専科のみの採用があり、配置が順調におこなわれ一般の教師が音楽の授業を行わなくてもよいという現状もあるが、近隣県の小学校において音楽専科は第4学年以降に配置されたり、音楽を専門としない教師がその他の理由により音楽専科となったりしている例もある。また北九州市のように小学校の採用試験に幼稚園教諭も含む地域も見られる。音楽に関する採用試験での扱いは幼稚園教諭では市によってばらつきもあるが、小学校教員採用試験においては、音楽科の出題は減って行くのではという声も今年度は多く聞かれたが、平成20年度九州各県における小学校教員採用試験での出題状況は【表1】の通りである。教員採用試験に出題された音楽科関連のについてまとめたものである。学生アンケートによるものであり受験生のない県では1次試験の内容が不明である。しかし、音楽科関連の出題が減ると考えられていたにもかかわらず多くのそして細部にわたる出題傾向が見られる。例えば「学習指導要領の各学年目標の穴埋め」「移調」「音程」「音符」「リコーダーの指使い」「鑑賞

など比較的基礎的楽典的問題が出題されていることがわかる。この点から教員採用を踏まえて教員養成校においてはやはり音楽科においても楽典の基礎的内容については確実に学習し、その内容を理解し咀嚼したうえで授業内でも使用できることが要求されているものであろう。

【表1】平成20年度小学校教員採用試験 音楽科出題状況

| 県名                     | 1次  | 2次  |
|------------------------|---|---|
| 大分県                    | 「おぼろ月よ」 何の曲か<br>何度上に移調しなさい<br>カルメンの作曲者<br>「春の海」は琴と何の楽器がつかわれていますか<br>G#などのことを何と言いますか<br>集団面接ないで場面に即した指法を問われる     | 模擬指導 10分・15分<br>バイエル70番と同レベルの曲1曲<br>歌唱共通教材1曲 階名唱                        |
| 沖縄県                    | 旋律にあう伴奏(左手)の(和音)をえらべ<br>この音は鍵盤ではどの音になりますか<br>学年の目標穴埋め<br>リコーダーの指の押さえ方<br>これは〜という歌ですが、どの部類ですか。<br>民謡 わらべうた 文部省唱歌 | 指導案を事前に作成し提出<br>ソフラーリコーダー旋律奏<br>歌唱教材をオルガンにて弾き歌い                         |
| 鹿児島県                   | 「もみじ」<br>この曲はなんですか<br>何調ですか<br>何学年ですか<br>この音は鍵盤ではどこを弾きますか<br>「赤とんぼ」「神ちぼうけ」「この道」作曲家<br>目標の穴埋め<br>アリラン            | 模擬指導 教師役と児童役にて質問など<br>小学校歌唱教材から1曲オルガン弾き歌い                               |
| 北九州市<br>(幼稚園<br>教員を含む) |   | 模擬指導<br>小学校第5学年及び第6学年の歌唱共通教材の中から試験当日指定する曲をピアノ伴奏しながら歌唱。楽譜は各自持参           |
| 熊本県                    |   | 模擬指導<br>ピアノバイエルより   |
| 佐賀県                    |   | 模擬指導<br>弾き歌い「おぼろ月夜・もみじ・冬げしき」の中から指定された1曲をピアノ弾き歌い楽譜は各自持参                  |
| 長崎県                    | ピアノ「春の小川」「冬景色」「このほり」より1曲<br>歌 4～6年の楽曲から1曲<br>歌「もみじ」 ピアノ「冬げしき」   | 模擬指導テーマを与えられ5分  |
| 福岡県                    |   | 模擬指導<br>オルガン弾き歌い共通教材の中から1曲  |
| 福岡市                    |   | 模擬指導<br>「おぼろ月夜」をピアノ伴奏しながら弾き歌い   |
| 宮崎県                    | リコーダーの後ろの穴をすずして弾く方法は？<br>目標の穴うめ<br>まつりのリズムを考えて書く<br>ト音記号とヘ音記号を五線に書く問題<br>目標の穴埋め<br>面接にて場面指導                     | 共通教材(「とんび(第4学年)」「このほり(第5学年)」「おぼろ月夜(第6学年)」)のうち当日指定する曲をオルガンで弾き歌い。伴奏譜は各自持参 |

教員免許取得者学生18名 教員免許取得見込学生35名 アンケート回収結果 各都道府県発表 平成20年度 教員採用試験募集要綱より(2次試験内容)

さらに、2次試験の内容については、大半が「模擬指導」と「歌唱教材の弾き歌い」である。模擬指導では音楽科以外の出題が多いと思われるが、短いところでは2分、長いところで15分の模擬指導が行われている。事前に指導案を提出する県とその場でテーマを与えられ15分～30分構想を立て5分～15分の実施となる。この場合模擬指導においては指導力ももちろんであるが構想を立てる事ができるか、言葉の扱いはどうか、児童とのコミュニケーションの取り方は

どうか、わかりやすく時間配分はどうかなど、さまざまな点から指導力を評価されることにある。そのため日頃の「模擬指導」の取り組みも非常に重要となってくると考えられる。「弾き歌い」についてはほぼすべての地域で行われており、小学校のみならず、幼稚園教諭の採用試験でも同様に必要とされる分野である。また小学校の採用試験においては歌唱教材を学習しているかどうか、声の大きさや音程などについても評価される。特に、低学年の教材より中学年から高学年の教材が指定されていることが多い。歌唱教材についてもいろいろと賛否があるが、基礎的内容として歌唱、弾き歌いを課すところが多い。ここでは今年度のみによるものであるが、学習指導要領の改訂時期でもあり、来年度は少しずつ変化が見られてくることも十分に考えられる。しかし、基礎力、実践力、指導力が要求される内容であることは明らかであり、養成校においては多面的に学習を進めていく必要があると考えられる。

## II 現場教諭の言葉的アプローチ参照

ここでは現場教師による日常的な音楽の授業における「言葉的アプローチ」を参照する。

### 【参照内容】

教諭の日常的音楽授業のビデオ撮影  
大分県内小学校 Y 教諭の協力による。  
平成19年9月18日撮影（5学年）  
平成19年9月25日撮影（4学年）

### 〔第5学年 ケース1〕

そんなにどきどきしなくていいよ。  
元気なすわり方をして下さい。リラックス。  
口は指3本分あけてみましょう。

これらすべてが元気に歌うこと、リラックスすると口が開くこと、口が開くと元気な声が出やすいこと。など一連の活動の流れが言葉の流れと一致しているといえる。

### 〔第5学年 ケース2〕

これはどっちですか。確認して下さい。

フラットがついているね。

よく見て下さい。もう一つがんばってみよう。

短い言葉の中で分かりやすく的確に指示している。この点は比較的學生の方が多くの言葉を使用している傾向が見られた。説明に説明を重ねる方法が多く曖昧になりがちである。

### 〔第4学年 ケース1〕

特急になっていいかな。さらにボリュームアップでいくよ。よくできました。早くてしかもボリューム満点でした。

児童が反応する言葉の使用をし、評価的言葉を随所に使用し、授業の流れに勢いがある。児童がどのように歌っていくか理解しやすい。

### 〔第4学年 ケース2〕

最後一緒になったよ。歌いながら先生の声聞こえた？つられそうになったね。

先生が歌ったパート練習してみよう。

学習内容の確認と問題点の指示がはっきりとしている。

第4学年授業、第5学年の授業を通して言えることは一連の授業に流れが存在していること。授業の内容、目標など明確な点である。また活動すべてに言葉があり活動があるという流れが存在しているため、授業内で児童が何をしていたのか分からないなどという時間は存在していない。

今回は2つの事例を参照したが、現場の教師による「言葉的アプローチ」は授業の流れに即し、明確で理解しやすいものであった。また「音楽的アプローチ」と双方で指導効果をあげており、児童が生き生きと歌唱し始める姿が見られた。歌唱の際次の活動に移行する時すでに前奏の演奏がはじまっているなど児童の次への活動を楽しみにさせる方法が多く使用されていた。

## III 學生の指導者としての言葉的アプローチの傾向

學生が模擬授業のなかで児童に対して指導者として発した「言葉的アプローチ」についてその傾向をつかみ考察する。

【検証内容】

- I 平成19年6月作成 学習指導案細案  
17ケース101の言葉かけより
- II 平成19年7月作成 学習指導案細案  
10ケース40の言葉かけより
- III 平成19年7月実施 模擬授業 30分案による4ケース

【指導段階】

- ①題材設定 目標設定
- ②教材選択
- ③教材研究
- ④指導案作成 評価基準
- ⑤指導案細案作成 言葉かけ
- ⑥模擬の模擬
- ⑦代表者による模擬授業（専攻科では全員模擬授業実施）
- ⑧反省

【指導案細案による検証結果】

| 対象    | 言葉かけの数 | 言葉不足 | 曖昧表現 | 重複発問 | 難易表現 |
|-------|--------|------|------|------|------|
| 初教2年  | 101    | 13   | 22   | 9    | 15   |
| 専攻科2年 | 40     | 9    | 7    | 2    | 5    |

指導案細案による言葉かけの作成により上記のような結果が得られた。①言葉不足②曖昧表現③重複発問④難易表現の4点に特徴が見られた。特に目立つ点は、曖昧な表現が多く一文が長い傾向にある。また的確な言葉が不足しているためわかりづらい。また初教2年次では難易な表現を多く使用する傾向がうかがえた。この初教2年次は教育実習前であり、実際に児童と接する機会もなく、指導案の作成に関しても数をこなしておらず、発問の重複なども経験を積むごとに減ってくる項目となるであろう。以下には模擬指導における学生の「言葉的アプローチ」を検証する。

[ケース1]

前の時間はみんなに歌ってもらったんですけど、今日は楽器を使って、声と音を出して、みんなでやっぺいこうと思います。

この指示のあと楽器の音が非常に多くなり、

楽器を使用するというと声と音を使うという指示で児童はすぐに楽器を鳴らし始めた。前の時間歌ってもらったように歌ってみたいので、立って下さい。

前時にどのような事をおこなったか、どこまでできていたか等の確認の言葉がないために児童はただ歌う作業になってしまった。

[ケース2]

手で表現したのね

カタツムリはどんな動きをしますか？ゆっくり？はやい？これを体で表現できますか。

「どんな動き」という曖昧な表現と第2学年に対して「表現」という言葉は難易である。また動きの発問であるのに重複して早さの発問へと移動し、さらに身体表現までこの言葉かけで移動している。発問の重複は指導のポイントがぶれてしまう。

2人組をつくってじゃんけんをしてください。じゃんけんぽん 勝った人にはカタツムリの体の部分をしてもらいます。負けた人はからをしてもらいます。

かたつむりを弾いてもらってみんなで動き回りたいと思います。では

C：私たちがするの

ゲームの手順を説明しているとき説明するのかやってみせるのか。誰がこの活動を今おこなうのか曖昧になっている。この結果児童から「私たちがするの」という言葉となりいつはじめてよいかわからない。

[ケース3]

みなさんこの歌の内容を知っていますか。わからない

ここでは「歌の内容」という言葉を使用しているが、おそらく歌の内容とは歌詞のことであろうが、児童にとっては何を質問されているかわからない。

もっとわかっぺいもらうために夕焼け小やけに振りをつけてやっぺいもらいたいと思います。

教師にとっては指導案などを考え授業の流れを考えての発言であるが、「やっぺいもらいたい」

とは何をするのか曖昧である。その他についても語尾の曖昧が多い。

これから5分か10分時間をあげますのでグループで考えてみて下さい。

指示を出すのであれば何分とはっきり指示しなければ児童は戸惑い時間配分ができない。次の活動へのスムーズな移行ができなくなる。

### <音楽指導 学生1> [ケース1]

T. 前の音楽の時間は何をしたら覚えてますか  
C. あわてんぼう～  
T. 前の時間はみんなに歌ってもらったんですけど、今日は楽器を使って、声と音を出して、みんなで作っていいと思います。まずは前の時間歌ってもらったように歌ってみたくて、立って下さい。(楽器の音が聞こえる)  
T. 今は楽器を使わないので、机の上に置いておいて下さい。  
T. いら、にい、さんあわてんぼうの～という風に入ります。  
T. ハイでは行きます。いちにいさん  
C. あわてんぼうの～♪  
T. はい ありがとうございます。では前も一回歌ってもらっているので、今日は楽器をさわっていいと思います。みんな楽器を手にして下さい。  
T. 楽器は4つにわけて配ってもらっているんですけども、一度にわって鳴らしたら、わからなくなってしまうので、一つずつやっていいと思います。  
T. ではまず鈴のグループから行きます。鈴の人だけ鳴らして下さい。鈴のひとが鳴らす部分は、リンリンのリンのところ2番目のところ。1番目だけ、まずは耳で聞いてやってみてください。 やってみます。(あわてんぼうのサンタクロース 歌ながら鈴をならす)  
T. みんなも楽器は鳴らさないけれども自分のところを考えて見てこんな風に鳴らそうかなと考えながら聴いて下さい。いちにいさん  
(グループ全員で歌いながら 鈴)  
T. 今日初めてなのにとてもよくできましたと思います。  
T. じゃ聴こうかな ドンドンドンがどのようにたたきますか  
C. このようにもってたたく  
T. ドンドンが伝わるように、先生を見てたたきましょう  
(歌と音)  
T. みんなはじめてのな上手ですね  
T. じゃマラカスのグループ。そんな感じで楽しくならしてください  
T. では最後タンバリン しゃらしゃらのところ どのようにならしますか  
そうぞういいですね  
T. 五番はすごい難しいです鈴もマラカスもタンバリンも全部あります  
みんなで作ってみよう  
すぐくはやいから難しいけど、ゆっくりならすところだけやってみようか  
リンリンリンチャチャチャドンドンシャララの順番でやります  
T. では一回ゆっくり1～5番まで通してやってみましょう  
はいありがとうございます。5番までやると長くて大変なだけだよ良かった。  
今すぐくゆったりやっただけど、あわてんぼうのサンタクロースっていうくらいなので、実際はもう少し早くやってみましょう。  
T. わかったかな?  
C. はい  
T. つぎはその場だと狭いので、前にでてきてやってもらおうと思います。  
楽器を持って前に出てきて下さい。

あわてんぼうのサンタクロースを想像しながら演奏して下さい。  
T. もとの席に戻って下さい。  
はい先生が、見て思ったのは楽しくうたってたかなと思ったんですけども、みんなはどうですか。今日楽器使ってみてどうでしたか。  
T. どんどこが楽しかったかな。  
C. みんなで楽器を振ったことが楽しかった  
T. どんどこが楽しかったかな  
C. 自分の位置でならすのが楽しかった  
T. 次はみんなでもんな音を使ったらよいかしらに考えていいと思います。  
12月25日にサンタさんがくるといひですね。

### [ケース4]

みんなに虫の声を聴いてもらったけど何となくわかりましたか

「何となく」という表現は曖昧である。「何が」わかったのかを明確に尋ねていないため何を答えるべきかわからない。

次これは。ではつぎ。ほかに。知ってる。

一語が非常に短く、発問の一部のみを言葉で発している傾向が見られた。文末まで明確に話すということは非常に重要なことである。語尾の省略や語尾の曖昧も多い。

### <音楽指導 学生2> [ケース2]

T. この前の時間何をしたら覚えてますか。  
C. かたつむり  
T. この前の音楽の時間にみんなにカタツムリの動きについて考えてきて下さいと伝えていたのを覚えてますか。  
T. 今日はみんなに考えてもらったカタツムリの動きを発表してもらいます。  
言える人  
C. はい  
T. 手で表現したのね  
C. はい によるよ  
T. 体で表現したのね これは何でしょう  
C. 目  
O. T. ○くんお願いします。  
C. わからない。  
C. 触覚? 触かいたら死ぬ?  
T. 死んじゃうかもしれないね  
T. その動きあとで使うからおぼえて  
T. カタツムリはどんな動きをしますか? ゆっくり? はやい?  
これを体で表現できますか。どんな動きをしますか  
T. 今発表してもらいました。恥ずかしくて発表できなかったひともおもいますが、今日はみんなが考えてきたカタツムリになつてうたって見ましょう。  
自分の好きなカタツムリになつて歌ってみましょう。  
T. まだまだみんな大きな動きができると思うんだけどな  
C. 先生さわって ひゅう～ だつて調べてきたモン  
みんな知ってる? 触覚 知ってる見たモン。  
T. こんなひろいところがあるのでカタツムリになつてうたって見ましょう  
ここ全部使っていいからそれではせつかくカタツムリになつてもらったのでカタツムリになつてゲームをしてみましょう  
T. いまからでんゲームをしたいと思います。  
ゲームをする前に、2人くみを作って下さい。  
説明します。まず先生とやってみよう。  
T. 2人組をつつてじゃんけんをしてください。じゃんけんぽん  
C. きゃー勝った  
T. 勝った人にはカタツムリの体の部分をしてもらいます。

負けた人はからをしてもらいます。  
どんなゲームかという、カタツムリを弾いてもらってみんながかたつむりになり動き回ります。  
<ゲーム開始>  
C. 私達もするの?  
T. 楽しそうだったけど楽しかった人  
感想を何人かに聴いてみたいと思います。  
C. 楽しかった。  
T. 結構たのしめ先生も楽しかったです。みんなカタツムリになれましたが、また楽しいゲームをしたいと思います。

<音楽指導 学生3> [ケース3]

T. みんなこの前やった夕焼け子やけを覚えていますか。この前の復習としてみんなで一度歌ってみましょう。みなさんこの歌の内容を知っていますか  
 C. わからない  
 T. 今日は皆さんに各グループに分かれてもらったんですが、もっとわかっただけに夕焼け小やけに振りをつけてやってみてほしいと思います。少しわかりにくいと思いますので先生がやってみてほしいと思います。  
 C. どのなの  
 T. 先生達がやった以外にみんなでも振りを考えてもらおうとおもいます。これから5分10分時間を上げてしますのでグループで考えてみてください。  
 T. みなさん振り付けをかんがえましたがそれでは班ごとに発表してもらいます。ではお願いします。  
 <発表4グループ>  
 T. どこがよかったか感想はありますか。ありませんか。  
 C. みんなの動きがあっていた  
 T. ほかにありますか。先生達とは全然違っていてもいいと思います。  
 T. 劇みたいになっていておもしろいです。みんな振り考えることで歌の内容がわかってきましたか。最後にもう一度振りをつけて歌ってみましょう  
 C. よーし  
 T. 今日の感想をお願いします  
 C. えっと歌詞の意味を体で表現する楽しさと難しさがあって楽しかったです  
 C. みんないろんな振りがあってもよかった  
 T. とてもよく表現できていたと思います。今日はこれで終わります。

<音楽指導 学生4> [ケース4]

T. みんなは秋になるといろいろな虫の声が聞こえてくるよね。どんな声か聞いたことがあるかな  
 C. こおろぎ せみ  
 T. ほかにほ すすむしまつむしほかに  
 こんなんもんな  
 C. きりぎりす  
 T. 今日はいろいろな虫のこえのでてくる歌を歌ってみたいと思います。きょうみんなで 歌う歌は虫の声といふみんな虫の声という歌聞いたことあるかな  
 C. はい  
 T. ある人もないひともいますね。いまから音楽をながすので聴いて下さい。みんなに虫の声を聴いてもらったけど何となくわかりましたか  
 C. わかりました～  
 T. みんなと一緒にCDを流して歌いたいと思います  
 みんな元気よく歌えたと思います 座って下さい  
 みんなに歌ってもらったんですけど、歌の中に何という虫がでてきましたか  
 C. まつむし まつむしってどんなの  
 T. ほかにありますか  
 C. すずむし こおろぎ くつむし うまおい  
 T. ほかにいますか  
 C. 5だよ  
 T. 5匹正解です。  
 今日の歌に出てくるまつむし すずむし こおろぎ くつむし うまおいについていまからみんなに聞いて行ってほしいと思います。  
 T. みんなこつちをみて じゃん これなんだ  
 C. イナゴ!  
 T. 歌に出てくる虫だよ コオロギ ほかに?コオロギでいいですか?  
 正解です。コオロギです。  
 T. 次にこれは?  
 C. スズムシ!  
 T. 正解です。では次!行きます。これは?難しいよ。  
 C. まつむし  
 T. 正解です。体が大きいよね。  
 T. 次は?  
 C. ツツムシ!みどりなん。  
 葉っぱ食べる?

T. 最後!じゃん!うまおい!  
 C. アブラムシみたい  
 T. 5匹のうち小さいです。  
 T. 次の質問に行きます。虫の声はどの虫のものか当ててもらいます。みんな虫の声を聞くときってどんな風にききたいかい  
 C. みみをすます。  
 T. おしゃべりしていい?  
 耳を澄ましてきてください。目をつぶって。行きます!  
 <虫の声>  
 T. 目を開けて下さい。  
 C. スズムシ!リーンリーンってないから。  
 T. はい!まつむし!ほかにないですか?  
 正解はコオロギです。この声!  
 T. はい次は、なんだとおもいますか?もう一回聞きましょう。ここは特徴があるねうまおいです。きいたことあるかな。  
 T. 次の次は。みんな耳をすまして!ツツムシ!  
 次はラストです!松虫!チンチロリンって聞こえますか?  
 T. 知ってるのありましたか  
 C. コオロギ  
 T. どうやって鳴くとおもいますか  
 C. 羽をこすりあわせる どうして鳴いているのだろう。  
 T. おしゃべりしている?  
 C. 虫同士で話してる。仲間を呼ぶ。  
 T. ほかにありますか今3つ出ました。  
 T. 虫の気持ちになって歌うにはどうしたらいいですか  
 C. 小さい声  
 T. お友達を呼ぶときは  
 C. 大きい声  
 T. どんな感じ  
 C. 楽しく歌う。  
 おしゃべりをするようにささやく ほそぼそ

T. みんなで3つの種類で歌ってみましょう  
 まずはお友達を呼ぶように、大きな声で  
 T. ひそひそ話をするように歌ってみましょう 2種類の中でどのうたいかたが好きでしたか  
 最初、2番目  
 C. はい  
 T. 大きな声でうたったり小さな声で歌ったりすると楽しいですね  
 みんなは大きな声で歌うのが楽しかったと言いましたのでもう一度大きな声で歌いましょう。  
 T. さあすわって下さい  
 大きい声で歌えてましたか。みんなにいろいろな声でうたってもらっていろいろな歌い方を見つけたけど、次回は楽器によって虫の声を表していきなさいと思います。

IV 考察

指導案の言葉かけと模擬授業のケースを見てみると、同様に4つに分類することができた。  
 ①言葉不足②曖昧表現③重複発問④難易表現である。これらの分類による問題点や特徴を考察する。

① 言葉不足

一文が長く説明が多いが的確な言葉が不足しているため、何をするのか、今どのように動くのか、どのように演奏するのかなど具体的にわからずその結果何度歌唱しても演奏に変化が無

かったり、同じ間違いを繰り返したりという傾向が見られる。

また省略言葉の多様も言葉的アプローチから考えると非常に懸念される点である。教師の発する言葉は児童に即反映されうる。

② 曖昧表現

教師側のみ理解していて、「前の時間の続き」「この前やったやり方」など児童には明確に知らせていない。また指導上の言葉として「5分か10分」「～のような」「～の感じ」の多様についても明確でない。さらに語尾の省略や曖昧さを残す言い方も多く見られた。

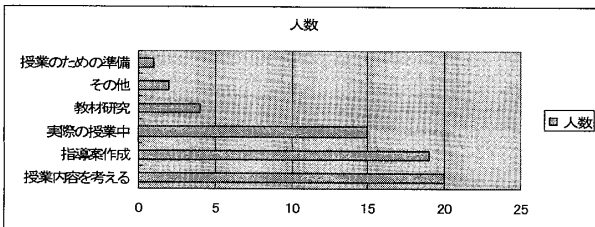
③ 重複発問

「～ですか～ですか」「～たり～たり」このような言葉はよく学生の模擬指導のなかでは使われる。発問が重複することで、目的が明確でなく児童は何を使ってどのように演奏するかなどが曖昧となってしまう。また説明途中で内容が変化している場合もある。さらに一文が長く説明を重ねる方法も非常に目立った。

④ 難易表現

小学校低学年中学年への授業内で学生の口からよく使用される言葉に「表現する」「把握する」「歌詞の内容」があるが、教師の発する言葉の中に児童が難易であると感じる言葉が入ることによって発問自体の内容も理解できなくなり、授業自体が理解した上で成り立たせることが難しくなる。

【難しいと感じた点はどこですか】



学生の感想から授業内容や指導案を考えることがとても難しいと感じていることがわかった。指導案や細案の段階で十分に熟慮されていない授業は実際の授業内での十分な指導が困難になる。さらに詳細の感想を<感想2>として掲載する。これにからも指導案段階での曖昧さ

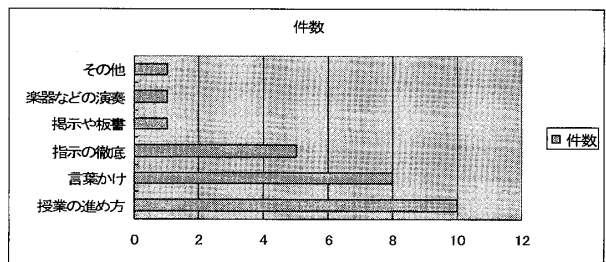
が授業に反映されていることがよくわかる。さらに、言葉かけの不足や発問に関する説明不足もあげられている。よかった点では、授業内容に関するものではなく、個人のパーソナリティに関すること声の大きさやししゃべり方に関するものが多かった。

<感想2>

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>★反省する点</li> <li>指示の仕方</li> <li>理解できたかどうか、楽しかったか</li> <li>授業の流れについて準備不足</li> <li>机間指導</li> <li>児童の答えを流してしまった</li> <li>時間配分</li> <li>授業内容の変化</li> <li>方向を決めること</li> <li>言葉かけの準備不足</li> <li>準備不足</li> <li>指示の使用方法</li> <li>資料の使用方法</li> <li>話し合い不足</li> <li>協力不足</li> <li>グループ内の理解不足</li> <li>予想される答えを考えておけばよかった</li> <li>指導する時の言葉発問</li> <li>授業の進め方を理解</li> <li>指導側の発問の内容</li> <li>思いつかない子どもの発言の対処</li> <li>指導案作成の人が大変</li> <li>指導案がまとまっていなかった</li> <li>模擬指導の模擬をしておくべき</li> <li>時間や経過などがあいまい</li> <li>教材研究不足質問に答えられない</li> <li>細案が難しい</li> <li>教師が児童を見ていない</li> <li>ピアノの練習</li> <li>模擬という甘さ</li> <li>言葉かけや発問不足</li> <li>授業に取り組む姿勢</li> <li>対応</li> <li>共感することができない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★よかった点</li> <li>元気がよい</li> <li>内容</li> <li>協力</li> <li>発見</li> <li>教師の態度</li> <li>教えることを思いっきり</li> <li>声かけのこえ</li> <li>工夫</li> <li>役割分担</li> <li>友だち同士で機会を持ちたい</li> <li>臨機応変</li> <li>子どもの発言があったこと</li> <li>体を使った動き</li> <li>はきはましたしゃべり</li> <li>楽しめる</li> <li>班の協力</li> <li>音楽の授業の新たな発見</li> <li>言葉使い</li> <li>興味をひくこと</li> <li>堅い授業ではないこと</li> <li>児童に伝えたかったテーマを理解させる事ができた</li> <li>意見を出し合える</li> </ul> |
|--|--|

実際の授業中と解答した学生からは授業の進め方、言葉かけ、指導の徹底が多くあげられていた。これら3つはすべてに絡み合っている要素である。

【実際の授業中と答えた人の解答から】



おわりに

音楽の指導では「音楽的アプローチ」は当然の事と考えられがちであるが、理解を深めるためまたいきいきとした音楽授業を行うためには指導者の「言葉的アプローチ」は非常に重要であると言える。また授業の流れや児童の音楽的価値評価についても「言葉的アプローチ」はそ

の効果をあげるものである。一つの発問でも児童はその内容や意味がわからない場合、すべての活動がつまらなくなり、指導者の発する言葉によって大きく児童にも影響も受ける。学生が指導者となる模擬授業では、「音楽的アプローチ」は音楽的技術や音楽を聴く力や見極める力が必要とされ非常に難しい点である。さらに発問や言葉の難しさは学生の感想からもうかがえる。しかし取り組みの中で気をつけて「言葉」によるアプローチを考える姿が多く見られるように変化してきた。本研究では学生の指導者としての「言葉的アプローチ」の一面が見えてきた。この方向性を踏まえさらに音楽指導を充実させていきたい。

#### <参考文献>

- 『中央審議会初等中等教育分科会 教育課程部会の経過報告』2006年2月
- 『教育課程部会 小学校部会 第4期議事録配付資料』H19.8 言語力育成の方策について【修正案・反映板】
- 『音楽科授業の模擬的指導についての実践と報告』藤田光子 2007年 別府大学短期大学部紀要 第26号
- 『平成20年度教員採用試験募集要項』大分県・沖縄県・鹿児島県・北九州市・熊本県・佐賀県・長崎県・福岡県・宮崎県
- 『メタファー思考 意味と認識のしくみ』瀬戸賢一2006年 講談社現代新書
- 『メタ認知的アプローチによる学ぶ技術』アルベルト・オリヴェリオ著 川本英明訳 2005年 創元社
- 『観点別学習状況の新評価基準表 題材の評価基準とABC判定基準』北尾倫彦・伊藤俊彦編集 2004年 図書文化